

平成26年度

第1回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会

議事録

日時 平成26年 8月22日(金)
14時00分 から 16時15分 まで

場所 浦和コミュニティセンター第13集会室

出席者 会長 柳井 重人
委員 坂田 澄代
委員 堀江 典子
委員 八木澤 順治
委員 中澤 佑子
委員 長澤 義則
委員 池上 憲二
委員 黒岩 修
太田 久(委員 能勢 和彦 代理)

事務局 都市局長、都市計画部次長
みどり推進課長、三角係長、町田係長、後藤主任、
益戸主事、船本主事

■ 平成26年度第1回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会 議事録

平成26年8月22日（金）14:00～16:15

発言者	意見内容
議題（1）さいたま市緑の基本計画次期アクションプランの策定について	
事務局から、さいたま市緑の基本計画次期アクションプランの策定について、資料に基づき説明	
黒岩委員	市民が関係する事業については特に苦労があると思うが、この報告書からはその苦労が読み取れない。苦労がわかるように示したほうが良いのではないか。
事務局	今後は各所管課が報告をする段階で遅れている事業についてはどういう要因により達成困難であるのか、記載してもらうようお願いしていきたい。
堀江委員	区ごとの違い（特色）をきちんと実行性のある施策に生かすことができれば良いと思う。
太田代理	緑の基本計画で掲げている「緑の目標水準」に対して現状はどうであるかということの見極め、あるいは遅れている分野を最終的にどうしていくのかということを検討していくことが次期アクションプラン策定にあたっての骨格になると思う。
柳井会長	<p>アクションプランを策定する目的は、緑の基本計画の目標を達成するための具体的な手段を整理することなので、「緑の目標水準」に対する現状を把握して、何が足りないのかという視点を持って整理してほしい。</p> <p>次期アクションプランの計画期間は、緑の基本計画の目標年度が平成32年度なので、それに合わせるということで6カ年という事でよいか。本来であれば次期アクションプランの事業が達成されると緑の基本計画の目標も達成されるというかたちになることが望まれる。</p> <p>また、緑の基本計画の施策に合わせて事業を組み立てるという方針でよいか。基本的には現行のアクションプランと同様の枠組みで整理していくということで了解いただきたい。</p>
長澤委員	<p>「景観重要樹木の指定」というものが新規事業としてあるが、さいたま市にある巨木や助成されている樹木をリストアップして公開するような取り組みはできないか。</p> <p>「見沼たんぼ」に関するものを公開・展示したり、歴史上の背景などを説明・PRしたりする機会があったら良いと思う。</p> <p>もう1つは次期アクションプランの事業に掲載されているが、「セントラルパーク構想」がどのような進捗状況になっているのか知りたい。</p>
事務局	<p>新規事業の「緑化活動等の地図による可視化」の中で、緑地や花壇などのボランティアの活動場所や、オープンガーデンを実施している家、さらには保存樹木や文化財などを表示していきたいと考えている。</p> <p>見沼たんぼについては、さぎ山記念公園を、見沼たんぼの歴史や自然景観、ボランティア活動の内容、さらには近隣農家の特売場の情報などのあらゆる情報が1カ所に集まる拠点地点として活用することができないかと検討している。</p>

発言者	意見内容
事務局	<p>セントラルパークは合併記念公園であり、本市の合併の象徴的な公園をつくってほしいというものである。基本計画では20ha程度を想定しており、さらに南側に10ha程度を次期拡張エリアとして設定している。また、今年度中にはさいたま新都心に防災公園をつくり、合併記念公園と連携しながら様々な需要に応えてほしいと考えている。</p>
池上委員	<p>新規事業の「公共用地における樹木等の管理ガイドラインの策定」についてであるが、入札制度によって安い業者が請け負うと、素人（技術力に乏しい人）が剪定することになりがちである。これによって樹形が乱れ、また剪定する時期が悪く、樹木が腐ってしまい、結果として倒木するという事態になる。こういったことを防ぐためにもガイドラインを策定して、樹木ごとに剪定する時期や剪定方法などを示していくことが、緑の質の向上や景観の保全につながっていくと思う。</p>
八木澤委員	<p>「遅れ」ている事業が、「緑の目標水準」のどこにどう寄与していくのかということ調べたほうがよいのではないかと。これから先、どんなに努力しても「達成」することが困難な事業もあると思うので、まず「遅れ」ている事業や「概ね順調」であってもこれ以上進行しない事業をピックアップした上で、次期アクションプランでそれらを補うための「何か」を考えていくことが必要であると思う。</p>
柳井会長	<p>現行のアクションプランと次期アクションプランの間の「つなぎ」の部分策定作業では重要になってくる。そういった意味で何をもちて事業の見直しを考えるのか、緑の基本計画に掲げている「緑の目標水準」との対応でどう考えるのかということが重要になってくる。</p> <p>また、例えば整備だけでなく「マネジメント」にも目配りした見直しを行うということや、「景観法」だけでなく、「生物多様性」や「低炭素」など新しい動き（キーワード）を踏まえて見直すといったように、基本的な考え方（方向性）がよくわかるようにしてもらいたい。</p>
長澤委員	<p>河川が多いというのがさいたま市の特徴で、基本的には河川沿いに緑を増やし、遊歩道や散歩道をつくっていただきたい。</p> <p>また、河川周辺には帰化植物が多い。そういうものを駆除していかないと緑が荒れてきてしまうのではないかと。</p>
黒岩委員	<p>現行のアクションプランの策定から4年以上が経ち、市民として評価できるところまで来た。これらの実績や成果を第三者や市民に評価してもらったり、さらには市外からの評価をもっと「見える化」していけばより良くものになると思っている。</p>
<p>議題（2）さいたま市みどりの街並みづくり助成事業について</p>	
<p>事務局から、さいたま市みどりの街並みづくり助成事業について、資料に基づき説明</p>	
中澤委員	<p>ボランティアとして浦和駅前では花の手入れをしているが、ケヤキは大きくなり涼しくなるとよいが、その影響で日当たりが悪く花が枯れてしまう。もう少し考えてほしい。</p> <p>市はプランターを設置して花を植えるというが、時間が経つと枯れてしまっても誰も手をつけなくなって放置してしまう。こういった細かい維持</p>

発 言 者	意 見 内 容
	<p>管理の苦労の問題も考慮いただきたいと思う。</p>
柳井会長	<p>今の話のポイントの1つは花や樹木を植えるときに持続性を確保できるかという問題である。それは技術的な課題や植える場所の問題によるものである。助成して終わりではなく、その先の維持管理に対してどうフォローできるかということである。</p> <p>もう1つは次期アクションプランの新規事業「公共用地における樹木等の管理ガイドラインの策定」にも関連する話であるが、樹木を植えた後、どのように良い状態を保っていったらよいのかということにも気を配ってほしいということである。</p>
堀江委員	<p>「みどりの街並みづくり助成制度」を利用して緑化した実際の成果や効果をもっと市民にわかりやすくPRすることで、「自分もやってみよう」と思う人が増えて、この制度の認知度が広がり、良い循環が生まれると思う。</p> <p>また、通学路などを重点的に緑化していくことも良い取り組みであると思う。新規事業の「景観重要樹木」は指定して終わりではなくて、それを呼び水として、その周辺一帯が美しい景観として広がっていくとよい。</p> <p>緑化する際に助成することと同時に、緑化した後のケアをすること、つまりサポート体制を充実させていくことが大切で、例えば維持管理に関して参考になる情報を提供することなども1つの支援策である。</p>
事務局	<p>「アフターケア」については、例えば維持管理に関する相談窓口をつくることなども検討していきたい。</p> <p>また緑化すると住宅やその地域のイメージを良くし、価値を高めることができるが、今後はそういった面もPRしていきたいと考えている。</p>
池上委員	<p>緑化に関心はあるが、緑化していない人たちは「お金」が問題なのではなく、手間がかかり、維持管理が大変であるということが問題なのである。つまり、助成金額についてPRするのではなく、緑化することで防災面や景観面、さらには健康面においてプラスに働く要素が大きいといったメリットをPRしていくべきなのである。手間はかかるが、それでも緑化に取り組んでみようという前向きな人たちをターゲットにPRしていったほうが効果的であると思う。</p>
八木澤委員	<p>緑化に関心はあるが緑化していない人と同時に、現在緑化に関心のない人に対してどう関心を持ってもらうかということが重要になってくると思う。</p> <p>今回の市民アンケートは緑化に興味がある人を対象にしているが、このことについてどう考えるのか。</p>
事務局	<p>例えば、同じ場所で緑化する前と緑化した後の写真を撮り、データベース化した上で、過去の事例をビフォーアフターとして見てもらうことで、普段あまり緑化することに対して関心がなかった人も実際に自分が緑化した場合のイメージがしやすくなり、効果的であると考えている。</p> <p>この写真のデータベース化は、今後順次行っていきたい。</p>

発 言 者	意 見 内 容
柳井会長	<p>この市民アンケートについては再度行うということではなく、今回の結果から解釈できる範囲内で対応していただければと思う。</p> <p>これから利用者向けアンケートを作成する際には、よく質問項目を検討して、なぜ手間がかかり大変であるにもかかわらず緑化したのかなど、率直な意見が聞き出せるようにしてほしい。</p> <p>この「みどりの街並みづくり助成事業」については今後こういったスケジュールを考えているのか。</p>
事務局	<p>現段階では制度の改正時期などは決めていないが、制度の内容の見直しだけでなく手続き方法の簡素化など、改善に向けた検討を時間の許す範囲内で行っていきたいと考えている。</p>
(1 6 時 1 5 分 終 了)	